

## お風呂から考えたこと

校長 山田浩之

九月二五日から二七日まで六年生は修学旅行に行ってきました。会津若松市内で歴史と文化に触れる学びを深めました。二日目は、四人ほどのグループにより、子どもだけで街中めぐりをしました。どのグループも、途中の電話報告や自分たちで立てた計画通りに行動をすることができ、行ったことのない街を楽しむことができました。貴重な体験となりました。

宿泊は、裏磐梯にある大きなホテルでした。子どももうれしいビュッフェ形式の食事やきれいな客室など、これも大満足でした。

お風呂は、大きな浴室と大きな浴槽、露天風呂もある本格的な温泉です。貸し切りにはできないので一般のお客さんと一緒の入浴になることは、事前に分かっていました。そこで、一般のお客さんに迷惑をかけたり、不快な思いをさせたりしないよう、学校では基本的なマナーや周りの人への配慮を指導して修学旅行に臨みました。

当日も入浴の時間、担当職員が子どもたちの様子を時々巡回します。そこでも、マナーについて子どもに声を掛けます。そうしたところ、一緒に入っていた一人のお客さんが、職員に近寄り、次のように話してくださいました。「そのように型にはめるから、子どもたちがすくすく伸びないのだ。もっと自由にさせなさい。湯船に飛び込むくらいがいいんだ。」

職員は、ご意見をくださったことに感謝の気持ちを伝えました。その上で次のように話しました。

「私共の学校では、子どもたちの自主性を大切に指導しています。同時に、周りにいる人への配慮や思いやりを大切にしたい指導もしています。これからも、自分もほかの人も気持ちよく入浴するために気を付けなければならぬことは指導していきます。」

声を掛けてきたお客さんは、それ以上は、お話をしませんでした。

また、別の場面では、次のような指摘もいただきました。

「子どもが、湯船にタオルを入れている。湯船に入っているときに長い髪の毛がお湯に浸かっている。」

この指摘には、直ちにお詫びをして次の日の入浴前に子どもたちに改めて説明をしました。

新潟小学校は、将来のために身に付けておくべきだと考えたことを子どもたちに指導します。子どものために何を教えるべきか、何を教えない方がいいかは、人それぞれに考え方があり、人によって違います。新潟小学校は、様々なご意見を伺いながらも、これまでも、そして、これからも私たちが大切だと考えることを子どもたちに教えていきます。